

そのときの備えは 十分ですか？

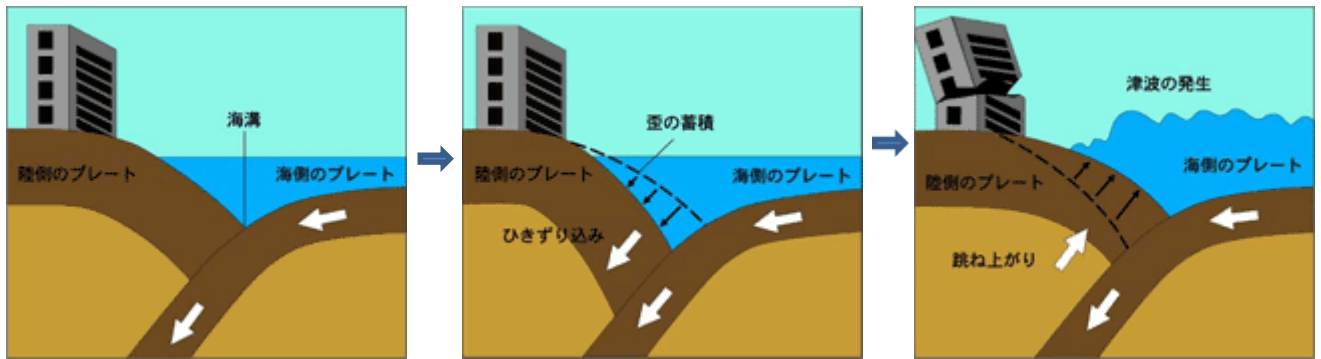


1 地震

地震はあらかじめ防ぐことはできません。しかし、日頃からの地震に対する対策や心構えを身につけることにより被害を最小限に抑えることができます。

地震はどのようにおこるのでしょうか？

地球の表面は10数枚のプレートと呼ばれる岩盤で覆われており、1年間に数cmというゆっくりとした速度でそれぞれが別の方向に動いています。そのためそれぞれの境界ではプレート同士が衝突したり、ずれあったり、一方がもう一方の下に沈み込んだりしています。日本周辺では海のプレートが陸のプレートの下に沈みこんでおり、このようなプレートの境界では巨大地震が起こります。さらに、この沈み込みによる力は、陸のプレートの内部にも影響を与え、陸域の浅い地震を発生させるのです。



震度別による感じ方は？

震度とは、地面の揺れの強さのことで、全国にある震度計ではかります。震度は「震度0」から「震度7」まであり、中でも震度5と震度6は、同じ震度であっても被害状況の幅が広すぎたため、「震度5弱」と「震度5強」、「震度6弱」と「震度6強」に分けて、全部で10階級にしています。



[人間]人は揺れを感じない。



[人間]屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。



[人間]屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。
[屋内]電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。



震度3

[人間] 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。
[屋内] 電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。



震度4

[人間] かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。
[屋内] つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。



震度5弱

[人間] 多くの人が、身の安全を図ろうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。
[屋内] つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の多くが倒れ、家具が移動することがある。



震度5強

[人間] 非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。
[屋内] 棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。変形によりドアが開かなくなることもある。一部の戸が外れる。



震度6弱

[人間] 立っていることが困難になる。
[屋内] 固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。



震度6強

[人間] 立っていることができず、はわないと動くことができない。
[屋内] 固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。



震度7

[人間] 揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。
[屋内] ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。

地震に備えておこう

●室内の安全確保



- ・ 家具類の転倒防止をしておくとともに、高いところに重いものを置かないようにしましょう。
- ・ 寝場所の近くや玄関などに転倒の恐れのあるものは置かないようにしましょう。
- ・ ガラスにはフィルムを貼っておくなどの破壊飛散防止をしておきましょう。
- ・ スリッパや懐中電灯を手近なところに用意しておきましょう。

●暮らしを守る備え（非常持ち出し品の用意）

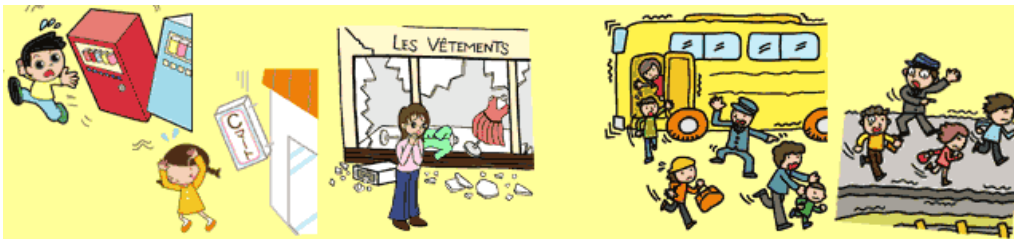


- ・ 水は1人1日 3リットル必要です。家族の数などに合わせて多めに用意しておきましょう。
- ・ 食料は保存のできるもの（缶詰やレトルトのごはんやアルファ米、缶詰やびん詰めのおかずなど）を最低3日分用意しておきましょう。
- ・ 火が使えないことがありますので、卓上こんろや固形燃料を用意しましょう。
- ・ 電気が使えないことがありますので、懐中電灯を一人1個用意しましょう。
- ・ 正しい情報を聞くためにラジオを用意しましょう。
- ・ その他、貴重品、救急医薬品、下着、雨具などを持ち出し袋に用意し、目のつく場所においておきましょう。

地震が起きたら

●家の中にいるときは

- ・ 揺れを感じたら、あわてて外にとび出さず、まず座ぶとんなどで頭を守り、丈夫な机やテーブルなどの下にかくれるなど、身の安全を守りましょう。
- ・ 使用中のガス器具、ストーブなどは、素早く火を消しましょう。
- ・ 中高層住宅（マンションなど）では玄関ドアや避難通路の戸を開け、出口を確保しましょう。



●外出しているときは

- ・ 塀や自動販売機などのそばから素早く離れましょう。また、看板などの落下物から頭部を守るようにしましょう。
- ・ 窓やショーウィンドウなどのガラスの破片、看板や壁面の落下を避け、建物から急いで離れましょう。
- ・ 電車、バスでは乗務員の指示に従いましょう。また、駅、列車内にいるときは線路に入らないようにしましょう。
- ・ デパートやスーパー、ホテル、地下街などの大勢の人が集まる場所では、階段や非常口に駆け寄らず、係員の指示に従いましょう。



●車の運転中では

- ・ 地震を感じたら左端に寄せて停車し、カーラジオで情報を聞き、規制に従って行動しましょう。

そのときの備えは 十分ですか？



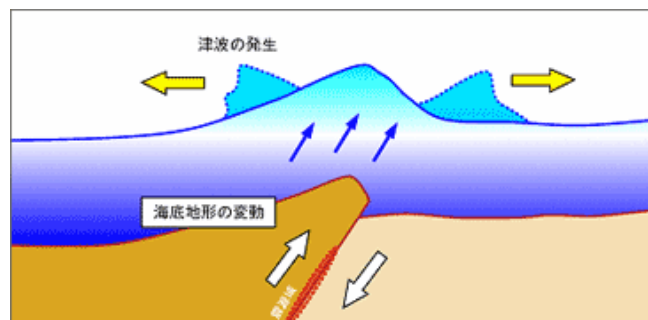
2 津波

地震発生後、津波が押し寄せてくることがあります。海岸で大きな揺れを感じたら、ただちに高台など安全な場所に避難しましょう。津波は速い速度で繰り返し襲ってくる場合があります。第1波が最大とは限りません。警報・注意報が解除されるまでは海岸には近づかないようにしましょう。

津波はどうしておこるのでしょうか？

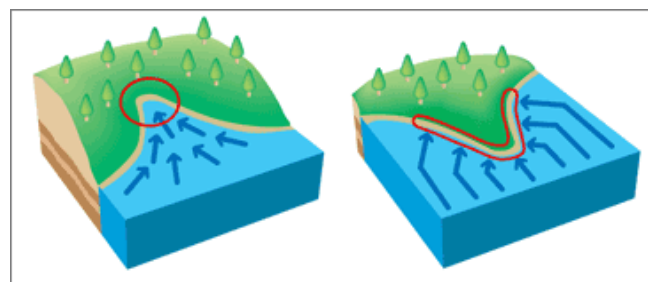
・ 津波とは

海底下の浅いところで大きな地震が起こると、断層運動により海底の地盤が隆起したり沈降したりします。この海底の変形にともなって海水が大規模に上下し、海面の変動が四方八方に広がっていく現象が津波です。



津波は通常の波浪と比べて波長が長くエネルギーが減衰しにくいいため、長距離にわたって伝わります。

また、津波は水深が浅くなるほど速度が遅くなるという性質があります。このため、水深が浅くなる陸地付近では後から来る波が次々に追いつき、高さが急激に増していきます。さらに沿岸の地形や構造物によって波の反射や回折(まわりこみ)が起こるため、局地的に津波の高さが増幅されることもあります。

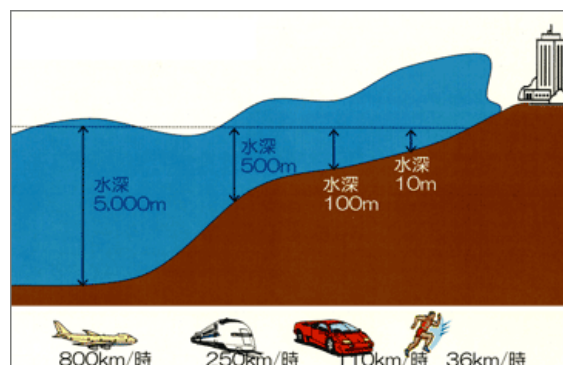


沿岸に打ち寄せた津波は、湾部などその地形によっては陸上を駆け上がる(遡上する)ことがあります。津波は海底から海面までのすべての海水が動くことから、陸上を遡上する際も威力があり、遡上しながら建物を破壊したり、船舶や岩などを陸地の奥まで運んだりします。その船舶などがさらに建物を破壊することもあり、いっそう大きな被害となることがあります。また、津波が河川を遡上することによってその流域に被害をもたらすこともあります。



・ 津波の速さ

津波の伝わる速さは水深が深いほど速くなります。津波が海岸に近づき浅くなるにつれて速さは遅くなり、後続の波が追いつき重なることにより津波は高くなります。



津波による被害

平成5年に発生した北海道南西沖地震による被害の最大の原因は、地震発生後に短時間で襲った津波による災害でした。震源に近い奥尻島では、地震発生後間もなく、3m以上の津波が島全体の沿岸にほぼ全域で押し寄せ、10m以上となる地域も多数見受けられました。この災害では、多数の犠牲者がでるなど大きな被害に見舞われました。

また、最近の災害では、平成15年の十勝沖地震で津波が海岸に押し寄せ、十勝港で255cm、大樹町や厚岸町の海岸でも4mを超える痕跡が確認されているほか、十勝川では津波が11km 遡上したことも記録されています。

津波は、わたしたちに身近な災害なのです。

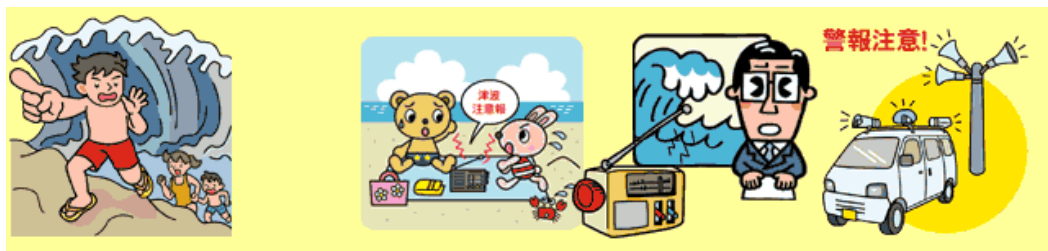
津波への対策

● 海の近くにいたら

海の近くで強い地震を感じたとき、弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに海浜から離れ、高台などの安全な場所に避難しましょう。

● 正しい情報を

うわさ話やデマなどに惑わされずにテレビ、ラジオなどから正しい情報入手し、警報・注意報が解除されるまでは海岸には近づかないようにしましょう。



津波に対する心得

一般編	<ol style="list-style-type: none">1. 強い地震(震度4程度)を感じたとき又は弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに海浜から離れ、急いで安全な場所に避難する。2. 地震を感じなくても、津波警報が発表されたときは、直ちに海浜から離れ、急いで安全な場所に避難する。3. 正しい情報をラジオ、テレビ、広報車などを通じて入手する。4. 津波注意報でも、海水浴や磯釣りは危険なので行わない。5. 津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報解除まで気をゆるめない。
船舶編	<ol style="list-style-type: none">1. 強い地震(震度4程度)を感じたとき又は弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに港外退避(※注1、※注2)する。2. 地震を感じなくても、津波警報、注意報が発表されたら、すぐ港外退避(※注1、※注2)する。3. 正しい情報をラジオ、テレビ、無線などを通じて入手する。4. 港外退避(※注2)できない小型船は、高い所に引き上げて固縛するなど最善の措置をとる。5. 津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報解除まで気をゆるめない。 ※注1. 港外:水深の深い、広い海域 ※注2. 港外退避、小型船の引き上げ等は、時間的余裕がある場合のみ行う。